

63 埼玉工業大学

Saitama Institute of Technology

埼玉工業大学フォーミュラプロジェクト

SIT formula project

<http://sitformula.wix.com>



悔いの残る結果



今回の総合結果・部門賞

●総合74位

Profile チーム紹介・今までの活動

近年の大学教育では実践的なものづくりがあまりされていないと考えた本学は、それを補うため2007年度より参戦を始めました。チーム発足当初は思うような結果が出せない状態が続いていましたが、近年では少しずつ動的種目にも出走できるようになってきました。現在部員が少ない中ではありますが精一杯活動しています。

Team-member チームメンバー

千把 朋也 (CP)

中島 敦 (FA)、高坂 祐顕 (FA)、向井 竜二 (FA)
加治 秀知、米谷 洋明、今井 和希、富沢 大樹、
大山 夏樹、青柳 祐希、堀本 岳海、伊野宮 隆志、
大熊 一輝、藤牧 滯亜、千葉 功太郎、佐藤 雄太、
藤浪 和映、鎌田 一輝、金澤 拓哉、中山 裕紀、
武田 菜柚

Presentation

プレゼンテーション

今年度のマシンコンセプトは昨年度に引き続き「Feel my drive」です。運転の楽しさをたくさんの人に感じてもらえるようにしました。私たちが考える運転していて楽しい車とは、ドライバーの意のままに操ることができる車だと考えています。2014年度のマシンでは、パーシー対策不足でフロントのオーバーハングが大きくなり、また各パーツの解析が充分にされておらず、重量が重くなった部品や整備性が悪くセッティングに時間がかかる問題がありました。これらの影響により走行性能は、ドライバーに対しての視界の低下、セッティングが決まらない、反応が鈍いなどがあり、私たちのめざす運転の楽しさを感じるマシンとは、遠いものとなってしまいました。

そこで今年度のマシンは、このような箇所の見直しを行いました。オーバーハングはペダルのレイアウトを変更し、フロントのフレームの長さを短くすることで小さくしました。フレームおよびAアームは、強度解析で最適なパイプ径やガゼットの位置を決定しました。また新たにラックマウントとベルククラックをアルミ削り出しで製作しました。

今年度は、これらの改良によって私たちの追い求める運転の楽しさをたくさんの方に感じてもらえるマシンになっていると思います。

Participation report

参戦レポート

昨年度はシェイクダウン証明が期限に間に合わなかったため、今年度大会は2年ぶりの出場であり、前回大会を経験したメンバーは数人しかいませんでした。加えて製作の遅延により十分に走行練習が行なえていなかったため、手探り状態で大会に参戦する形になってしまいました。

大会では車検では細かい部分での修正点がありましたがすぐに直すことができ、無事車検を通過することができたのですが、3日目の動的種目に参加する前にプラクティスエリアでクラッシュしてしまい、午前中に予約していたスキットパットとアクセラレーションに出走することができませんでした。幸い、破損したところがステアリングのタイロッドだけで済んだため、パーツを交換し何とかオートクロスに出走することができました。

エンデュランスでは弊チームのマシンはDグループにて出走しました。しかし、大会までに燃調のセッティングが充分に行なえなかったため、エンジンが途中で停止し念願の完走とはなりませんでした。

来年度は今回起きた問題を解決するため、早期完成をめざし確実にステップアップしていきたいと考えています。

Sponsors スポンサーリスト

スズキ、NTN、日信工業、大同工業、東洋電業、デンソー、ローバル、不二越、新藤、山洞金物店、重松製作所、三菱マテリアル、F.C.C.、東京アールアンドデー、高周波精密、ブリタケカンパニーリミテド、岡田商事、JBM

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/63.html>